



Cisco ボイスメール ポートの設定

Cisco ボイスメール サーバに関連したポートは、Cisco ボイスメール ポート ウィザードを使用せずに、Cisco Unified Communications Manager データベースに追加したり、削除したりすることができます。Cisco ボイスメール ポートを設定するには、次のトピックを参照してください。

- 「[Cisco ボイスメール ポートの設定値](#)」 (P.58-1)
- 「[Cisco ボイスメール ポートと影響を受けるデバイスとの同期化](#)」 (P.58-6)

Cisco ボイスメール ポートの設定値

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、[拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [Cisco ボイスメールポート (Cisco Voice Mail Port)] メニュー パスを使用して、Cisco ボイスメール ポートを設定します。

オプションのソフトウェアである または Cisco Unity Connection は、シスコ ユニファイド コミュニケーション ソリューションの一環として利用され、ユーザがコールに回答できないときに、ボイスメッセージ機能を提供します。Cisco Unity Connection はユーザがコールに回答できないときに、ボイスメッセージ機能を提供します。この章では Cisco ボイスメール ポートを追加、設定、更新、および削除する手順について説明します。この手順は Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ボイスメール (Voice Mail)] メニューから、[Cisco ボイスメールポート (Cisco Voice Mail Port)] を選択することによって実行できます。

ボイスメッセージと Cisco Unified Communications Manager との接続性の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager SCCP Integration Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。

Cisco ボイスメール ポートの設定のヒント

Cisco ボイスメッセージシステムを Cisco Unified Communications Manager に接続するには、Cisco Unified Communications Manager データベースに Cisco ボイスメール ポートを追加する必要があります。



ヒント

新規 Cisco ボイスメール サーバとポートを追加したり、既存のサーバに複数のポートを追加するには、この項で説明されている手順の他に、Cisco ボイスメール ポート ウィザードを使用することもできます。詳細については、「[Cisco ボイスメール ポート ウィザード](#)」 (P.59-1) を参照してください。

Cisco ボイスメール ポートの削除のヒント

電話番号が使用している Cisco ボイスメール ポートを削除すると、番号は Cisco Unified Communications Manager データベース内に残ります。ボイスメール ポートを使用している電話番号を特定するには、[ボイスメールポートの設定 (Voice Mail Port Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を

選択し、[移動(Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約(Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。

使用されているボイスメール ポートを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。現在使用されているボイスメール ポートを削除する前に、削除するボイスメール ポートを使用している電話番号すべてに別のボイスメール ポートを割り当ててください。「[電話番号の設定値](#)」(P.43-1) を参照してください。

ボイスメール ポートを削除した後で、そのボイスメール ポートを使用していた電話番号を削除できません。「[割り当てられていない電話番号の削除](#)」(P.46-3) を参照してください。



ヒント

[拡張機能(Advanced Features)] > [ボイスメール(Voice Mail)] > [Cisco ボイスメールポート(Cisco Voice Mail Port)] メニュー オプションを使用する代わりに、Cisco ボイスメール ポート ウィザードを使用して、既存のサーバからポートを削除できます。詳細については、「[Cisco ボイスメール ポート ウィザード](#)」(P.59-1) を参照してください。

GUI の使用方法

Cisco Unified Communications Manager の管理の Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザ インターフェイス) を使用してレコードを検索、削除、設定、またはコピーする方法については、「[Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでの操作](#)」(P.1-13) およびそのサブセクションを参照してください。GUI の使用方法とボタンおよびアイコンの機能の詳細が説明されています。

設定値表

表 58-1 では、Cisco ボイスメール ポートの設定値について説明します。関連する手順の詳細については、「[関連項目](#)」(P.58-7) を参照してください。

表 58-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値

フィールド	説明
[デバイス情報(Device Information)]	
[ポート名(Port Name)]	Cisco ボイスメール ポートを識別する名前を入力します。Cisco ボイス メッセージ システム上でポートごとにデバイスを追加する必要があります。24 個のポートがある場合は、24 個のデバイスを定義する必要があります。 [ポート名(Port Name)] フィールドには 1 ~ 15 文字 (文字、数字、ピリオド、アンダースコア、ダッシュを含む) を入力できます。ただし、「-VI<ポート番号>」で終了する必要があります。
[説明(Description)]	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。
[デバイスプール(Device Pool)]	デフォルト値または特定のデバイス プールを選択します。
[共通デバイス設定(Common Device Configuration)]	このデバイスを割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられた属性 (サービスまたは機能) が含まれています。共通デバイス設定は、[共通デバイス設定(Common Device Configuration)] ウィンドウで設定します。詳細については、「 共通デバイス設定 」を参照してください。

表 58-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、このデバイスからコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。登録者の番号およびネットワーク デバイスへのコールを可能にするコーリング サーチ スペースの名前を選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのコーリング サーチ スペースが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリング サーチ スペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリング サーチ スペースの検索条件のフィールドで、検索条件を選択し、コーリング サーチ スペース名の一部を入力します。表示されたコーリング サーチ スペースのリストで、指定したいコーリング サーチ スペースの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。</p> <p>(注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	<p>Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p>
[ロケーション (Location)]	<p>ロケーションは、Call Admission Control (CAC; コール アドミッション制御) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオのアーベイラビリティを調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このボイスメール ポートに適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このボイスメール ポートが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「ロケーションの設定 (P.15-1)」を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコール アドミッション制御」を参照してください。</p>

表 58-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[デバイスセキュリティモード (Device Security Mode)]	ドロップダウンリスト ボックスから、ボイスメール サーバ ポートに適用するセキュリティ モードを選択します。ここに表示されるオプションは、データベースであらかじめ定義されています。デフォルト値は [-- 選択されていません --] です。ボイスメール サーバのセキュリティを設定する方法については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウンリスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに対して Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレー ポイント) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。 [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた Media Termination Point (MTP; メディア ターミネーション ポイント) またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVP Agent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVP Agent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVP Agent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク仮想化および信頼できるリレーポイントの詳しい説明については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレー ポイント」の項、およびそのサブピックを参照してください。</p>
[電話番号情報 (Directory Number Information)]	
[電話番号 (Directory Number)]	このボイスメール ポートに関連する番号を入力します。このフィールドと [パーティション (Partition)] フィールドとの組み合わせが、固有のものであることを確認してください。

表 58-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[パーティション (Partition)]	<p>この電話番号が属するパーティションを選択します。パーティションを使用しない場合は、[なし (None)] を選択してください。パーティションを選択する場合は、そのパーティションを含むコーリング サーチ スペースを選択する必要があります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのパーティションが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウを表示します。「パーティションの検索 (パーティションが多数ある場合)」 (P.40-4) の手順に従って、パーティション名を検索し、選択します。</p> <p>(注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、この電話番号からコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。パーティションを選択する場合は、そのパーティションを含むコーリング サーチ スペースを選択する必要があります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのコーリング サーチ スペースが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリング サーチ スペース名を検索し、選択します (「コーリング サーチ スペースの設定値」 (P.41-1) を参照)。</p> <p>(注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[AAR グループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [なし (None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
[内線発信者 ID 表示 (Internal Caller ID Display)]	<p>この回線からコールが行われるときに、着信側電話機に表示されるテキストを指定します。</p>
[内線発信者 ID 表示 (Internal Caller ID Display、ASCII 形式)]	<p>この回線からコールが行われるときに、着信側電話機に表示されるテキストを ASCII 形式で指定します。</p>

表 58-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[外線番号マスク (External Number Mask)]	<p>外部 (発信) コールに対して、発信者 ID 情報をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。このマスクには、最長 50 文字までを指定できます。発信者 ID 情報に表示する数字列を入力します。デバイスの電話番号を表すには、X を使用します。</p> <p>国際的なエスケープ文字 + も入力することができます。</p> <p>自動代替ルーティング (AAR) が帯域幅不足のためにコールをルーティングする場合、余裕のある帯域幅を使用できなければ、Cisco Unified Communications Manager は、このフィールドの値を使用してコールを発信します。</p> <p>例</p> <p>DN 1000 (外部マスク 9728131000) は DN 1001 (外部マスク 2144131001) をコールします。帯域幅不足のためにコールがブロックされると、Cisco Unified Communications Manager は、AAR プレフィックス番号を 2144131001 と一緒に使用して 1001 にコールを発信します。</p>

追加情報

「関連項目」(P.58-7) を参照してください。

Cisco ボイスメール ポートと影響を受けるデバイスとの同期化

デバイスと設定を変更したボイスメール ポートを同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます (たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります)。

手順

-
- ステップ 1** [拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [Cisco ボイスメールポート (Cisco Voice Mail Port)] の順に選択します。
- [ボイスメール ポートの検索と一覧表示 (Find and List Voice Mail Ports)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- 検索条件に一致するボイスメール ポートがウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 影響を受けるデバイスと同期させるボイスメール ポートの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内のボイスメール ポートをすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [選択項目への設定の適用 (Apply Config to Selected)] をクリックします。
- [設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 6** [OK] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.58-7) を参照してください。

関連項目

- 「Cisco ボイスメール ポートの設定」(P.58-1)
- 「Cisco ボイスメール ポートの設定値」(P.58-1)
- 「Cisco ボイスメール ポートと影響を受けるデバイスとの同期化」(P.58-6)
- 「Cisco ボイスメール ポート ウィザード」(P.59-1)

